



BCGワクチン

B-06

🐣 どんな病気ですか？

わが国では、かつては「結核は国民病」といわれるほど広がっていた病気ですが、1951年に結核予防法が制定されて以来、結核にかかる人の割合が順調に減りました。しかし、1980年代に入り減少率が鈍り、2000年代以降は毎年20,000人前後が発病しています。

肺結核

- 結核菌は、肺で増え、炎症反応を引き起こし、やがて肺の組織が壊されていきます。

初期の症状はかぜの症状と似ていますが、咳や痰、微熱などが長く続くことが特徴です。体重減少や食欲不振、寝汗をかくこともあります。進行すると、だるさや息苦しさが出てきたり、血が混じった痰が出て、呼吸困難などを引き起こし、死に至ることもあります。

全身感染症

- 肺以外の臓器（腎臓、リンパ節、腸、骨や脳など）に病気を引き起こす状態です。特に免疫機能が未発達な小さなお子さんは、重症化しやすく、結核菌が体中に広がる粟粒結核（ぞくりゅうけっかく）や結核菌が脳や脊髄を包んでいる膜に感染する結核性髄膜炎などを発症します。

近年、交通手段が一段と便利になり、感染者が容易に移動できることも十分に病気をコントロールできない一つの原因と考えられています。また、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染症をはじめとした免疫が低くなる病気にかかっている場合、結核が重くなり、また他の人に病気を広げてしまうことも問題となっています。このようなことから、結核は再び注意すべき感染症です。



🐣 ワクチンをいつ、何回接種しますか？

1回



生後1歳になる前まで

BCGは結核による重い病気を予防する生ワクチンです。BCGは、もともと牛に感染する牛型結核菌の毒性を弱めたものです。ワクチンの液を左腕に1滴たらし、はんこ型の注射を2回押しして接種します。

生後1歳になる前までに1回接種します。標準的な接種期間は生後5か月から生後8か月未満です。

🐣 ワクチンの効果

BCG接種は、小さいお子さん、特に乳児や幼児の結核性髄膜炎や粟粒結核（ぞくりゅうけっかく）などの重症な結核の発症を予防します。

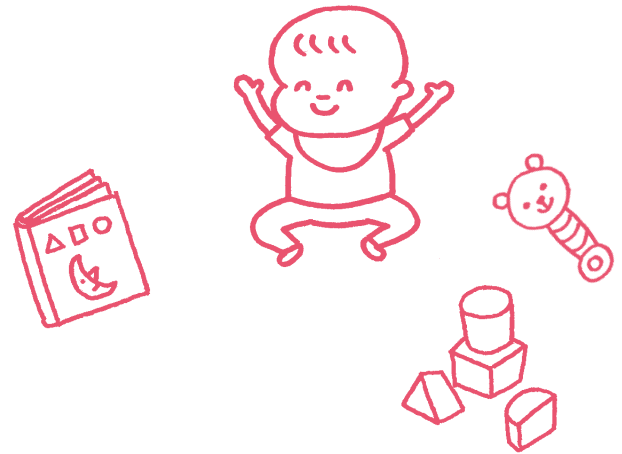
🐣 ワクチンの副反応

- ワクチン接種の正常な反応（写真）として、接種後2週目頃から、針の痕に一致した場所が赤く固くなったり、その後、じくじくして、化膿したようになるのは通常の反応です。接種後、5～6週頃にそれらが最も目立つようになります（写真）。その後、かさぶたができ、やがて跡を残し、きれいな肌にもどります。



（写真）BCG接種から約2か月後赤く盛り上がったぶつぶつが見られます

- このような症状が数か月以上続いたり、接種後1週間以内で現われた場合には、医療機関を受診してください。
- 接種した側の腋の下のリンパ節がはれることがあります。頻度は1%未満です。典型的なものは接種後1〜3か月頃に起こり、2cm程度まではれることもありますが、接種後6か月後までに自然に小さくなります。治療は必要ありません。
- 稀ですが、全身播種性（はしゅせい）BCG感染症（全身にBCG菌が広がる病気）、骨炎・骨髄炎、皮膚結核が認められる場合があります。特に、重い副反応をきたした場合は、お子さんの免疫に問題があることが報告されています。骨にBCG菌がくっついて炎症をおこす骨炎・骨髄炎は、接種後数か月から数年たってから、見つかることもあるので注意が必要です。



♥ ワクチンが接種できない人は誰ですか？



接種を受けることができない、いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 免疫機能に異常があったり、免疫機能を抑える治療を受けている場合（免疫抑制剤など）
- 結核の既往のある者
- 結核その他の疾病の予防接種、外傷等によるケロイドの認められる者
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合



接種を受けるにあたって注意が必要な人 接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分に対してアレルギー反応を起こすおそれのある人
- 過去に結核患者との長期の接触がある人
- その他結核感染の疑いのある人

🐣 どのように感染しますか？

結核の原因菌は結核菌です。主に、結核菌が空気にただよい、それを肺の中に吸い込むことで感染します。結核菌が体の中に入ってもすべての人が発病するわけではありません。病気になるかどうかは、菌をもらった人の免疫と菌の量などの力関係によります。また、免疫力が衰えた時に体の中に潜んでいた結核菌が活動を開始して病気をおこすこともあります。



空気感染
空気に漂っている病原体を吸い込んで感染

